

令和4年度第3回南外地域協議会会議録

令和4年9月29日

南外地域協議会

令和4年度第3回南外地域協議会会議録目次

■開催日時	1
■開催場所	1
■出席委員	1
■欠席委員	1
■出席職員	1
■次第	1
■開会	2
■会長あいさつ	2
■議事録署名委員の指名	2
■協議	2
① 令和4年度地域枠予算対象事業の報告について	2
1. 【継続】「なんがい地域祭」開催事業 市民協働型	
② 南外地域「彩色千輪プロジェクト」に関する報告について	4
③ その他	10
■閉会	15
■署名	15

令和4年度 第3回南外地域協議会 会議録

■日 時：令和4年9月29日（木） 18時00分

■会 場：南外コミュニティセンター

■出席委員： 9名

伊藤 君 夫、伊藤 直 人、伊藤 伝 悦、木村 ふみ子
佐藤 喜八郎、佐藤 正 行、相馬 静 華、高橋 恵 子
八嶋 康 晴

■欠席委員： 7名

伊藤 成 幸、伊藤 まゆみ、風口 宏 子、今野 徹、
佐々木 久、佐藤 和 香、高見 正 志

■出席職員： 6名

○南外支所職員

久米 啓之（支所長）	佐々木 満智子（市民サービス課長）
佐藤 マキ（公民館長）	佐藤 和好（農林建設課長）
木村 慎吾（地域活性化推進室主幹）	佐々木 心都（地域活性化推進室主事）

■次 第：

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 題
 - ① 令和4年度地域予算対象事業の報告について
 1. 【継続】「なんがい地域祭」開催事業 市民協働型
 - ② 南外地域「彩色千輪プロジェクト」に関する報告について
 - ③ その他
- 4 閉会
- 5 署名

(18時00分 開会)

○木村地域活性化推進室主幹（以下「地域活性化推進室主幹」と表記）

皆様、本日はお忙しいところご出席いただきまして、ありがとうございます。ただいまから令和4年度第3回南外地域協議会を開会いたします。協議会開催にあたりまして、伊藤会長からご挨拶を頂戴いたします。

○伊藤直人会長（以下「会長」と表記）

皆さんお晩でございます。まだ、予定されている委員の皆さんがみえていないようでもありますけれども、お忙しい時期に招集してご迷惑をおかけしております。南外地域もいよいよ病院がなくなったりして、寂しいような気もいたしますが、それとはまた別に橿岡川の整備も完成して下流は大丈夫な状態になって、少しずつ地域も良くなってきているのかなという気もいたします。委員の皆様からは忌憚のない意見をいただき、将来のために少しでも役立つような会になれば良いと思っておりますので、今日はよろしく申し上げます。簡単ですが、最初の挨拶とさせていただきます。

○地域活性化推進室主幹

ありがとうございました。それでは議事に入らせていただきます。本日の出席予定委員数は11人です。現在8名の方が出席されています。現時点で過半数に達しておりますので、本会議は成立することをご報告いたします。

本日の議題はその他を含めまして、3件です。また、会議録作成のため録音させていただくことをあらかじめお断り申し上げます。なお、ご発言の際は挙手の上、会長の指名を受けてからお願いいたします。

それでは、議事の進行は伊藤会長にお願いいたします。

○会長

それでは協議会を始めさせていただきます。議題に入る前に本日の議事録署名委員を指名します。伊藤伝悦委員と八嶋康晴委員にお願いいたします。

それでは議事を進めてまいります。議題①の令和4年度地域枠予算対象事業の報告について、事務局より説明をお願いいたします。

○佐々木地域活性化推進室主事（以下「地域活性化推進室主事」と表記）

【継続事業】

● 「なんがい地域祭」開催事業【市民協働型】

- 事業の目的：南外地域で活動する各種団体の1年間の学習成果を展示する機会を提供し、相互理解を深めるとともに地域伝統文化の継承を図る。また、農産物品評会を開催し、食の安全や生産技術への関心を高めるとともに南外地域の農業を広く地域住民に紹介し、農業振興に資する。催しを通じて明るく活力ある地域づくりに寄与する。

- 予算額：439,300円（報償費、消耗品費、光熱費、印刷製本費、手数料、賃借料）

○会長

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、皆さんからご意見、ご質問等ありましたら伺いたいと思いますので挙手の上、ご発言願います。

継続事業でありまして、昨年はお休みをいただきましたが、今年は縮小開催ということでした。

○佐藤喜八郎委員

農業と林業があるわけで、大仙市のSDGsの取り組みにも豊かな森づくりというのがあります。やはり林業も参加していただけるような、そういう地域祭にできたらいいなと思いますがいかがなものでしょうか。

○佐藤公民館長（以下「公民館長」と表記）

地域祭については公民館祭を母体としておりまして、主に芸能発表ですとか作品展示というところから始まっております。農業品評会というのは、南外村時代からずっと続けてきたものですが、林業については思いが至りませんでした。大変申し訳ございませんでした。関係する林業関係者の皆さんとご相談しながら、今回は準備の都合上間に合わないかと思っておりますが、検討してまいりたいと思います。

すみません。追加させていただきます。僅かばかりの気持ちですけれども、桜の苗木をプレゼントして林業振興しようという予定はあります。ただ、桜を配るということなのでもう少し色々な企画を検討していこうとも思っております。

○佐藤喜八郎委員

桜の苗木をプレゼントしていただけるということで良かったです。今後検討して前向きに考えていただけるということでしたので、ありがとうございます。桜の苗木を配るのは良いのですが、間違いのない植え方、そういうのを加えてほしいと思います。私も地域祭に参加しますが、植え方によって思いが違ってくると思うのでその辺りも余裕があればお願いできればと思います。

○会長

はい。今まで林業が加わったことが無かったので、桜の苗木の植え方等もこれから色々相談して検討してくださるということのようです。よろしいでしょうか。

他にありませんか。

【意見・質問なし】

無いようですので、議題②の南外地域「彩色千輪プロジェクト」に関する報告につきまして事務局の説明をお願いいたします。

○地域活性化推進室主幹

● 南外地域「彩色千輪プロジェクト」に関する報告

1. 「なんがいをなんとかしよう」ワークショップの実施について

南外支所地域活性化推進室職員（兼務職員含む）及び拠点施設関係職員の7人でワークショップを実施。このワークショップは、地域協議会委員の皆さんが参加した「南外のミライワークショップ」のほか、彩色千輪プロジェクトの一環で実施した各種意見調査を通じて寄せられた、地域活性化に対する意見やアイデア等を整理・分類し、同プロジェクトの事業計画策定に役立てることを目的に行ったものである。約120項目の意見・アイデアを実現度（4区分）と行政・市民の役割分担（3区分）に仕分けした。

【ワークショップでの地域住民等の意見・アイデア仕分けまとめ】

	① 実現可能 (令和4～5年)	② 準備期間が あれば実現可能 (令和5～7年)	③ 準備に時間はかかるが、 頑張れば実現可能 (令和6年以降)	④ 実現困難	計
A. 行政主導 市役所でなければできないこと	14	3	9	13	39
B. 官民連携 市役所と地域住民が協働で行うべきもの	32	12	9	7	60
C. 市民主導 住民主体で実施できるもの	16	4	1	0	21
計	62	19	19	20	120
	①→②→③ の順で事業化を検討していく			注：①にはすでに実施済み（19件）のものを含む	

【ワークショップで「(準備期間があれば) 実現可能」に分類されたもの】

- 地域情報の充実
- 個室休憩＋ランチのセット
- 広報の強化
- 子どもが遊べるスペースの整備
- 若い世代のコミュニケーション
- 食に関するイベント、まつり
- 豊かな自然を生かしたイベント 等

2. 南外中学校「地域とつながる！」プロジェクトについて

① 「もっと売り込め！なんがいブランドスイーツ」

「南外さいかい市」で製造しているお菓子の販売普及に地元中学生から一役買ってもらおうことで、「南外さいかい市」の活動を地域住民に広く知ってもらい、サポーターを掘り起こすことなどを目的に実施している事業。「南外さいかい市」のお菓子詰め合わせ商品のパッケージを南外中学校の1年生にデザインしてもらい、その商品を10月23日開催予定の「なんがい地域祭」会場で中学生が対面販売する予定。

② 「小さな拠点」活性化会議

南外中学校2年生12人に彩色千輪プロジェクトで地域の拠点に位置づけしている3施設（南外ふるさと館・南外民俗資料交流館・南外さいかい市）の現在の状況を理解・把握してもらった上で、大人が見落とししている価値を発見・掘り起こしてもらい、中学生らしい柔軟な発想で施設の利活用策を提案・発表してもらおう事業。現在、利活用策を書類にまとめる企画書づくりまでの作業は完了している。

今後は、9月30日に「地域活性化プラン発表会」を実施し、拠点3施設の利活用策を地域協議会委員や学校評議員等や市役所関係者に発表するほか、10月8日には新型コロナウイルス流行後初めて一般開放で開催予定の南外中学校学校祭のステージプログラムのひとつとして、保護者や地域住民等の前で発表を行う予定。

3. 大仙市SDGs未来都市計画について

市はこのたび「大仙市SDGs未来都市計画」（市SDGs計画）を策定した。計画の中では、経済・社会・環境の3側面をつなぐ統合的な取り組みを「持続的好循環によるWell-being（ウェルビーイング）創生事業」とし、その一環で「SDGs実現に向けたひとつづくり・まちづくり」を推進することとしている。その取り組みのひとつに「彩色千輪プロジェクト」が位置付けられている。

これを受け、南外地域「彩色千輪プロジェクト」では、市SDGs計画全体のタイトルに掲げる「課題先進地の挑戦 ウェルビーイングにあふれる持続可能なまち」の実現に資する事業を計画していく。

注：「ウェルビーイング」…身体的、精神的、社会的にすべてが満たされた状態。多面的・持続的な幸福。

4. 南外地域「彩色千輪プロジェクト」事業計画の策定について

南外地域「彩色千輪プロジェクト」事業計画策定の手順の中で計画づくりの土台とするために実施を計画していた、地域住民等を対象にした意見調査等や関係職員等によるワークショップはほぼ完了した。

今後は地域活性化推進室が本庁地域活動応援課が示した「令和4年度彩色千輪プロジェクト市長プレゼン実施要領」を基に、また「南外地域自治区振興計画」等の既存の関連計画の達成状況等を踏まえながら、地域住民等から寄せられたアイデアを具現化できるように同プロジェクト事業計画案を策定する。10月20日には事業計画案を市長に説明する予定。

○会長

ありがとうございました。説明内容が多岐に渡りまして、分かりづらい部分もあったかと思いますが、委員の皆様何か確認しておきたいこと、ご意見等ありましたら伺いたいと思います。何かありますか。

○伊藤伝悦委員

今説明があった資料に載っています、㊦や㊧とはどういう意味ですか。

○地域活性化推進室主幹

このマークは、便宜上こちらでつけさせてもらったものになります。㊦がハード事業のことで施設や建物の改修等にお金をかけるということ、㊧がソフト事業のことで各種イベントや催しの開催のことを指します。

○会長

今の関連ですが、割とソフト部門が大半を占めておりますが、ハード部門も補助金が出るという説明が最初の頃あったかと思えます。ハード部門について、もう少し思い切って予算をお願いしても良いような気がします。せっかく3つの施設が、1つのまとまった拠点として運営することですので、その3つをリンクさせるために必要な看板を、今整備するというお話でした。例えばこのような感じで、3つの施設を機能的に連携できるようなそのための費用があればと思います。ハード部門に該当できる要件もあるかと思えますが、この際お願いできれば、3つの施設がより機能的に運営できるような方法があるかと思えます。今、色々付け加えるとなればまとめる方も大変だと思いますので、徐々にで良いです。例えばふるさと館も大分時間が経って、古くなってきてリニューアルするべき部分もあるかと思えます。今急に答えが出ないかとも思いますが、そういった運用の仕方も考えていただければと思います。

○地域活性化推進室主幹

ふるさと館のハードに関する部分については、温泉施設対策室も絡んでいまして、そちらでも地域協議会の皆さんから寄せられた意見等を踏まえて、今後の方向性について考えていかれるかと思えます。また、彩色千輪プロジェクトの中で考える部分に関しては、意見調査を実施したわけですが、その中では調査に協力していただいた皆さんからは具体的にここをこうの方がいいという意見があまり出てきませんでした。駐車場のスペースを

もう少し使い勝手を良くしてほしいという意見はありましたが、建物そのものに関しては特に意見が出ていませんでした。中学生からは Wi-Fi 環境の整備というのがありました。今回は、あくまで住民の皆さんの意見を尊重しながら計画を練っていったというのが一番大きいです。

○会長

今お話ししていましたが、今の駐車場はふるさと館ができた時の駐車場のままでして、その後資料館ができたのですが、資料館ができたから駐車場を拡充したわけではないし、さいかい市もできましたけれども、そこでスペースを取られてしまって駐車場が手狭になってしまいました。そういう状況は否めないと思いますので、この際駐車場も何とか整備してもらえたらと私も思っていたところでした。今のような意見が地域の方から出たということでしたが、実現する方向性や何か案などありましたでしょうか。

○地域活性化推進室主幹

意見として出されたのは、あくまで駐車場を整備してほしいという内容だけでしたので、現時点で具体的にどこをどうすればいいのかというところまで、まだ話が及んでいません。駐車場を整備するとなれば現状の建物はどうなるのかといったことや建物の位置は動かさない中で、新たな駐車場を確保していくとなった場合は別の問題が色々出てくるかと思えます。当然、そういった意見があったことは間違いありませんので、何らかの方策は考えていかななくてはいけないと思いますが、まず令和5年度に速やかに実施できそうなものということで、今回あげさせてもらったものがこちらでした。ここに載っていないものに関して、全然考えていかないということではないので、ご理解いただければと思います。

○会長

まずそういう話があるというだけでも、良かったと思います。今後検討して5年度、6年度に間に合うかどうか分からないですけども、そういう意見があるということも踏まえて、今後内容を考えていただければと思います。

他に皆さんご意見、ご質問ありませんか。

○佐藤喜八郎委員

ハード事業については、ソフト事業を実施する上で地域活性化推進室の方で必要性を考えて計画にプラスしてもらいたいと思います。

もう一つ、地域活性化推進室の方向性についてですが、「自然豊かで人が集まる南外」とあります。何かを作らなければならないだろうというお話を先程木村さんの方でされたけれども、やはりそれに関連して山の幸、山菜を生かすという案もありますし、実施困難なことについてもおっしゃられましたが、若者のキャンプ、アウトドア、というものもあがっていました。南外地域で自然豊かというところをどう考えた時に、珍味、豊かな森林、それにかかわる環境、楽しむ環境、そういうことがあげられます。さっき少しお話出

ましたけれども、山の上にある緑の交流施設を整備しておかないとやはりそれにまつわる事業が進んでいかないのかなという感じがします。トイレは使えそうですけれども、危ないので入り口を越えて入れないという状況ですので、その辺りは改修しておかないと、自然豊かも、山の幸もキャンプも繋がっていかないのかなという気がします。ですので、ハード事業についての話ですけれども、あそこの施設の入り口は、ぜひ修繕していただけるようにお願いしたいと思います。

○会長

それについて何か回答できますか。

○久米支所長（以下「支所長」と表記）

ふるさと館上の公園についてですが、まだあまり草が生えていない時に私たちも途中まで登らせていただきまして、やはり管理棟の入り口が腐っていました。中も見させていただいたのですが、まだまだすごくきれいで十分使える施設でしたので、もったいないなと思っていたところでした。今、森林組合であの辺りの山の木を伐採しているみたいで、広場の部分は木材が置かれていてなかなか行けない状態になっていますけれども、それが落ち着いたらキャンプ場がどのようになっているのか確認したいと思います。農林建設課の森林の補助金等も活用できるみたいで、西仙北では東屋や遊歩道を補助金を使って整備しているようです。ただ、ハードを整備するにあたっては、今後どのようにその場所を活用していくのかということも大切だと思うので、その辺も絡めながら整備を盛り込んでいければと思っています。2、3年中にはもしかしたらできないかもしれませんが、せつかくある施設ですのでこの計画に盛り込んで、支所としては、そういう方向に持っていければいいなと思っております。よろしく申し上げます。

○地域活性化推進室主幹

もう一つ、アウトドアニーズへの対応という風にかかせてもらったのですが、住民サイドのアウトドアに対してのニーズについて、現状、松木田のキャンプ場をすぐ使える状態ではないので、必ずしもアウトドアのニーズをそのキャンプ場で消化しなくてもいいのではないかと思います。彩色千輪プロジェクトではこの3施設を拠点として実施していくという考えではあるのですが、他の場所を使ってのイベントや行事を実施してもいいのではないかと考えているところでした。ふるさと館に隣接するので、松木田のキャンプ場がすぐ使えればいいと思うのですが、アンケート調査ではキャンプ場を使いたいというよりも、もう少しじっくりとしたアウトドアへの意見も見受けられたので、そういった野外活動を支援できるような取り組みでもいいのではないかと考えています。そういう取り組みであれば、松木田のキャンプ場の再起動はすぐにできるものではないかもしれませんが、時間がかかるものかもしれませんが、視点を変えればやれることもまだあるのかなと思います。なので、ここではまだはっきり松木田キャンプ場という書き方はしませんでした。

○伊藤君夫委員

こうやって具体的な取り組み関係を推進していく時に、出色なものを、要するに目玉を一つ作らなければならないのではないかと思います。拠点エリアを有効に活かすには、例えば、現在そばを植えている人たちもかなりいるので、圧倒的においしいそばが食べられるとか、食と買い物ができるという二つの要素がないといけないかと思えます。風景がきれいですよ、いいお湯ありますよ、などは秋田県中どこにでもあるわけですよ。ですのでそこで差別化と言いますか、何としても出色なものがないと人は呼べないのではないのかなと思えます。呼んだ時に何が一番魅力があるのかとした時に、1つは食だと思えます。山菜を生かすと言って、わらびがどれだけ良くても限界があります。野菜でも良いのですが、南外で独特なものを作っているとか、そこでもやっぱり、朝取り野菜だとか新鮮な野菜だとかはどこにでもあるわけです。それに右ならえのことをやる必要もあるのでしょうか、同時に食の部分で皆さんを呼べるような魅力あるものを、一つ一生懸命になって考え、そして5年あたりまで養成します。そのようなことを実施する必要性があると思えます。前にお話ししたのですが、お宝を売る市のようなものを出して、フリーマーケット風にしてもいいので、そういう生臭い部分も持っていけば、人は結構集まるという要素はあると思えます。圧倒的にアウトレットな店を南外に展開させるとか、そのぐらいのことも一緒に並行して考えていったらどうかと思えます。アウトレットについては実現不可能な部分があるかと思えますが、おいしいものを作るという部分は結構時間があるので、研究できるのではないかなと思えます。繰り返しますが、出色なものを用意するというのが、拠点エリアの魅力を持たせる重要な部分ではないかと思えます。

○会長

ありがとうございました。やはり人を呼ぶためには、魅力のあるものを提供できないといけないという意見かと思えます。そのあたりも考慮しながら、ただプレゼンが10月中旬というと明日に10月ですので、それまでまとめるとなると非常に大変すぎるかと思えます。できる範囲でできるものから取り込んでいくという考えでまとめてくださるので、ご難儀をお掛けしますが、よろしく願いいたします。

他にありませんか。

○佐藤喜八郎委員

中学生のブランドスイーツ事業について、写真が8枚あるうちの一番右下ですが、大曲高校生徒と書いてあるのですが、これは高校生も入って活動されているのですか。

○地域活性化推進室主幹

高校生は入っていないです。これは大曲高校生徒がこの事業とは別で、大仙市の特産品を通信販売で売るときに使う、段ボールのデザインを考える事業がありました。今回の南外中学校生徒が取り組む事業の中で、参考になるサンプルとして提示したものになります。

○佐藤喜八郎委員

分かりました。

○会長

それでは、彩色千輪プロジェクトに関してはこれぐらいにさせていただきたいと思えます。

次に議題3のその他に入りたいと思えます。最初に支所からお知らせ等があるようですので、説明をお願いしたいと思えます。

○佐々木市民サービス課長（以下「市民サービス課長」と表記）

南小学区コミュニティセンターの今後の整備計画について、令和2年度より関係所管課と実施に向けて検討を重ねてきたところでありますが、先月8月の市長協議において「建替」を進めていくこととなりましたので、報告いたします。

大仙市の公共施設については、大仙市公共施設等総合管理計画を毎年見直し、施設の修繕や統廃合について検討しています。各地域の施設の存続や廃止、また改修、譲渡、解体など今後どのようにしていくかという検討がなされる中で、昭和49年に建築され、築48年を経過しようとしている南小学区コミュニティセンターについては、南檜岡地区の中核をなす集会施設として、とても利用率が高い施設であることから、建て替えまたは改修を希望してきたところであります。

集会機能を持つ施設の集約が進められており、南外地域でも他の施設との兼ね合いがあり、検討に時間を要しましたが、この度市長との協議が整い、南小学区コミュニティセンターは利用者が多く、南檜岡地区の地域活性化の拠点、また災害時の防災拠点となる施設であることから、「建替」による整備を行うこととなりました。今年度中にアスベスト調査を行い、工程案ではありますが、令和5年度に地質調査、基本設計、実施設計、令和6年度には建設工事に着工できるよう、現在準備を進めています。

近隣自治会や利用団体の代表の方への説明会は、10月中旬以降の実施を予定しています。地域協議会の委員のみなさまには、進捗状況について随時お知らせしていきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

○会長

南小学区コミュニティセンターが建て替えになるというお話でしたが、委員の皆さん何かご質問等ありませんか。

今の建物を壊すということでしたので、その間お休みになってしまうということがあるようですが、休むということに対する対応が求められると思えますので、これから考えてくださると思えます。

委員の皆さん、他にご意見、ご質問なければ次に進みたいと思えます。

○地域活性化推進室主幹

- 令和4年度上半期における管内でのイベント等の実施状況について

- 南外おらほの桜まつり

開催日／会場：4月23日～5月1日／南外ふれあいパーク

- さなぶり酒花火

開催日／会場：6月4日／南外体育館前特設会場

参加者数：500人

- 南外盆踊り

開催日／会場：8月15日／南外コミュニティセンター

参加者：100人

- 「教えて！菌ちゃん先生」初めての自然農法勉強会

開催日／会場：8月30日／南外コミュニティセンターほか

参加者：34人

- 南外地域自治会連絡協議会懇談会

開催日／会場：9月9日／南外コミュニティセンター

- 南外小学校10周年記念式典

開催日／会場：9月23日／南外小学校体育館

参加者：142人

○会長

説明が終わりましたが、委員の皆様何かありますか。

【意見・質問なし】

特に無いようですので、その他のその他に入らせていただきます。委員の皆さん日頃の気になっていること等ありましたら、ご発言をお願いしたいと思います何かありますか。

○佐藤喜八郎委員

事務局より最後の説明がありまして、地域枠予算事業のイベントが結構あるのですが、地域枠予算事業の自己負担についての見直しをお願いしたいと思います。大概の場合、桜まつりでも盆踊りでも、直接利益に繋がるようなものではありません。ボランティアそのものですので、自己負担というのは必要ないのではないかと感じます。全部が全部とは言いませんが事業によっては自己負担がいらぬという形のものもあってはいいのではない

かと思えます。団体の構成員も10名とありますが、その辺りも弾力的に事業によって検討できるような制度を考えていただきたいと思えます。

○会長

ただいまの佐藤委員の意見につきまして、説明お願いできますか。

○支所長

ご意見ありがとうございます。地域枠予算に関しては、行政主導型、市民協働型、市民主導型と3パターンあるわけですが、市の要項を見ると、地域づくり事業補助金要項というものがありまして、市民主導型に関してはこの要項に則って補助金を出しております。こちらに補助対象経費が6分の5で6分の1は会の方から出してもらうという内容が書かれておりまして、なかなかこの要項に則ってとなると自己負担ゼロは厳しいのかなと思えますが、今実施されている事業の中で会の皆さんが主体となってやるべきもの、行政がやっていかなければならないものを区分けしながら、整理しながらやっていけば団体の負担にならない部分も出てくるのではないのかなと思っています。ですので、もしご相談いただければ、行政でやるべきもの、団体の方からやっていただくもの、会の設立の趣旨なども踏まえて対応していきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

○佐藤喜八郎委員

支所長が今おっしゃったような対応ができる事業もあると思えます。事業がボランティアですので、あえて自己負担分を要項に持っていつているという意味も私ちょっとわからないのですが、ものによっては自己負担がゼロで良いものもあるのではないかなと思えます。要項もみんなで作ったものですから、みんなが意見すれば変わるものですから、よく協議してもらって、考えていただきたいと思えます。

○伊藤君夫委員

ボランティアで事業を実施することになり、全て地域枠予算を使って事業をやってみたところ赤字になりましたと、こういった時はもう一回金額を再編成するのですか。なので、これは事業を実施するという時に、事業をやろうとする団体の人たちが、やはり何割か負担することで調整する分を持っておかないといけないのではと思えます。地域枠予算で全て補って実施できるケースがありますよという時は、どこで判断してどこで結論を出せるのかという問題が出てくるのではないですか。やはり事業を実施しようとする団体は、例えばさっき言ったように自分たちで何割か負担して、実際8割近くは地域枠予算のほうから出してもらうなどというような形でやっていかないといけないと思えます。赤字になる可能性はないわけではないので、そこでアジャストできて事業を実施しようとする団体の人たちで準備金といいますか、そういうのを用意しておかないとおかしいと思えます。ですので、100%地域枠予算でやっていくというのは少し難しいのではないですか。

○会長

ですので、6分の5という縛りを現在は設けております。

○伊藤君夫委員

はい。だからそこはやはり、本当に事業を実施したという時に収拾がつかなくなるのではないかなと思います。再申請するという形を協議会で持ち出すシステムを作るのか、作り出すのが可能であれば100%面倒見ましょうというのは可能だと思います。

○会長

その点になると、少し地域協議会単独では佐藤委員さんと伊藤委員さんのおっしゃっていることの調整がつきにくそうです。

事務局で何かありますか。

○地域活性化推進室主幹

地域枠予算に関しては、毎回こちらで事業説明をさせてもらっている中で、実施類型というものがあります。今は3つ型がありまして、行政主導型と市民協働型、市民主導型があります。このうち、支給対象団体がボランティア団体を想定しているのが、市民協働型と市民主導型です。市民主導型に関しては、ボランティア団体が自発的にこれをやりたいから活動経費を支援してほしいという形で申請に来るケースが多いと思います。こういった団体に対しては補助金という形で団体の方にお金を支給しまして、あとは自己資金を加えて自分たちで活動していく、というような流れになっているかと思います。もう一つの市民協働型というのは、行政課題や行政がやるべきような活動の作業について、原材料や重機借り上げの部分の資金は役所で負担するので、団体で作業をしてほしいというようなときに使う地域枠予算になっています。ですので、今佐藤委員からお話あったケースに関しては、まず現状の地域枠予算のルールの中で団体の方の負担をあまり伴わないような形でできないかというところから考えていった方がいいのではと思います。ですので、内情が分かっている、どういった団体を想定しているかというのは分かるのですが、本来であれば行政でやるべきことを行政の代わりにボランティア団体でやってもらうという場合でしたら、市民協働型を適用させて、必要経費は行政で負担する流れにすれば、上手く地域枠予算制度の枠組みの中で対応ができるのではと考えております。これは多分今までも色々な事業でやってきたことだと思います。

○伊藤君夫委員

地域枠予算を利用するという1つの事業の申請があった場合、これを審査しますよね。その時に、単純な話、例えば花いっぱい運動を実施した時に種に十何万かかりますという説明を受けて、いいですよと我々承認したわけですよ。そして十何万かかった時の領収書を我々が確認する機能は今までないわけですよ。はっきりどこの種苗店から、見積書

を取って金額を定めるのでしょから、使用しましたという金額が明確に記されたものを、明確に売ったものを我々見る機会というのがないわけです。その辺りのところも含めてどうなのかなという疑念はあります。さっきの話に少し戻りますが、市民が主体になってやる場合においては、団体負担という部分が存在しないと上手くいかないのかなと思います。そして、支所はここですよや公民館はここですよなどという看板ができましたよね。あれも金額的に百何万とか、そのくらいの金額が謳われ、ふるさと館の看板にしても謳われました。何円かかるかの金額は明確に分かるのですが、実際にどのくらいの金額がかかったかやかからなかったという部分、貸借対照ではないですけども、その辺りのところを考えた時に市民のほうでやるといわれた場合には、どうしても泳ぎ代みたいなものが必要ではないのかなという感じはあります。

○会長

伊藤委員さんが言っていた現物のコピーなどは添付していませんけれども、それぞれの支出は報告いただいていますので、かかった経費などは我々に報告いただいているつもりですけれどね。

佐藤委員さんがおっしゃる100%補助に持っていける事業もあるのではないかということですが、それについては要項ありまして、今までは要項に則って脱線しないようにして注意しながら運営してきたと思います。ですが、要項を見直してもいい時期にきているかもしれませんので、佐藤委員さんのおっしゃるようなことも考慮しながら6分の5に拘らず、10分の8とかそういった按分の仕方も検討していただければと思いますので、検討の余地があるようでしたらしていただければと思います。

伊藤委員、よろしいでしょうか。

○伊藤君夫委員

余った時はどうしますか。

○地域活性化推進室主幹

余った場合どうするかに関しては、精算して返納してもらっています。南外の地域協議会に関しては、地域枠予算事業については出来る限り事業に入る前の段階で、こういうのをやりますという形で報告させてもらっていて、最終的にいくらかかったかというのは年度末の事業報告の中で、実施した事業をまとめて金額だけ報告させてもらっています。各団体からは、事業が終了した1ヶ月以内に実績報告書を提出してもらうことになっていて、その書類のチェックは地域活性化推進室で行っています。当然書類に不備があれば何回も突き合わせして、書類の出し直し等をしてもらいながら、最終的な報告に持っていくような流れになっています。

○伊藤君夫委員

了解しました。

○会長

それでは、委員の皆さん他にご意見、ご質問ありましたら出していただければと思いますが、何かありますでしょうか。

【意見・質問なし】

無いようですので、本日の会合はこれで終わりたいと思います。次回の会合は、11月下旬を予定しております。詳細は後日事務局を通じてお知らせいたします。

これをもちまして、令和4年度第3回南外地域協議会を閉会します。おつかれさまでした。

(19時30分 閉会)

南外地域協議会運営規程第7条第2項の規定によりここに署名する。

会議録署名委員

伊藤 伝悦

八嶋 康晴
